令和６年２月２６日

世田谷区立玉川中学校
校長　奥平　雄二　様

世田谷区立玉川中学校
学校関係者評価委員会

令和５年度学校関係者評価委員会　報告書

１．　目指す学校像

玉川中学校では、「令和５年度学校経営方針」において、以下の４点を目指す学校像としている。

（１）「生徒の夢や志を叶え、夢中になれる」学校

（２）全教職員がチームとなり、生徒の学力・体力の向上、キャリア・未来デザイン教育・進路指導の充実を図り、義務教育としての最終段階の責任を果たす学校

（３）正解のない困難な時代を自ら考え未来を切り拓く力を身に付けることができるよう学びの質の転換を図る学校

（４）生徒、保護者、地域にとって信頼され期待される学校

２．　令和５年度に向けた改善方策

令和５年２月作成の「令和４年度学校関係者評価委員会報告書」等から明らかになった玉川中学校の教育活動の成果と課題を踏まえ、より充実した教育活動を展開するために、玉川中学校では、令和５年３月２４日付け「令和５年度に向けた改善方策」において、以下の項目に対する改善方策を掲げている。

（１）学習に関して、生徒に確かな学力を身に付けるための、教員の指導力向上、教科教室型の教室の特性を生かした授業改善、個に応じた指導の充実等

（２）生活指導に関して、生徒の個に応じた指導のための、全教職員で取り組む学校づくり、相互関係の良好な醸成、人間の多面性・多様性を理解した指導

（３）情操教育に関して、豊かな人間性を育てるための、学校目標の確実な達成

（４）キャリア教育に関して、自己の将来・未来のための、キャリア教育の意義の理

解、希望に沿った進路指導の実現

（５）基本的な生活習慣の確立に関して、豊かに成長するための、「食事」「睡眠」を大切にする生徒の育成等

（６）情報提供に関して、学校を理解し支援してもらうための、学校の取組みや活動状況等の積極的な発信等

３．　成果と課題

評価委員会では、生徒、保護者、地域の各「アンケートの回答分布と平均」、学校の「分析と考察」、ヒアリング結果等を総合的に考察し、「２．令和５年度に向けた改善方策」の項目を中心に以下のとおり成果と課題を確認した。

なお、コロナ禍以前は、学校関係者評価アンケートの集計結果の分析に際して、より的確な判断をするために、単年度だけではなく過去５年間の状況等も加味して検討してきたが、コロナ禍以降は、原則、昨年度との経年比較に留めるとともに、WEB によるアンケートへの変更に伴って回収率も変化していることも考慮して検討した。

（１）学習に関する成果と課題

改善方策では、教員の指導力向上を目指すとして、校内研修の実践継続とキャリア・未来デザイン教育を基本に据えて「学び舎での学びを見通した指導の工夫」を研究していくとしていた。校内研修としては、「数学」、教科「日本語」を校内研究授業としていた。令和５年度は、学び舎の連携として中町小学校の授業を公開してもらい教科ごとの意見交換を行う交流会を実施していた。

次に、教科教室型の教室の特性を生かした授業改善を目指すとして、タブレット型情報端末（以下「タブレット」という。）を積極的に利用したわかる授業を展開するために、異動直後の教員研修の実施や機器、資料の整備の工夫などの視点によって教員全体で取り組むとしていた。アンケートでは、先生は、映像やタブレットなどの ICT を利用し、分かりやすい授業をしているについて生徒の肯定的評価が１０ポイント程度上昇していた昨年度に引き続き、５ポイント程度上昇していることから、昨年度と同様に一定の成果が上がっており定着してきていることがうかがえる。引き続き、教員全体でのさらなるレベルアップに向けた取組みが望まれる。

そして、個に応じた指導の充実を目指すとして、保健体育科における TT の授業、数学・英語における少人数習熟度別指導の効果的な指導を展開し、個の能力に応じた指導を充実させるとしていた。また、今年度も「TOKYO GLOBAL GATEWAY」での英語移動教室（２年生）などの取組みも行われていた。

アンケートでは、個に応じた指導、基礎を固める指導などについて、生徒の肯定的評価が３ポイント程度上昇していた。

（２）生活指導に関する成果と課題

改善方策では、全教職員で取り組む学校づくりを目指すとして、本校の生活指導方針の共通理解を徹底するとしていた。アンケートでは、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できるについて生徒の肯定的評価が８ポイント程度低下していた。今後、ルール内容や指導状況の検証に加え、生徒自身によるルール作成の取組みの検討も必要と考える。

次に、相互関係の良好な醸成を目指すとして、良好な信頼関係の構築のために保護者等への連絡・相談を迅速かつ丁寧に行うとしていた。アンケートでは、昨年度の当報告書で改善の余地があるとした生徒の相談しやすさについて、肯定的評価の割合は昨年度と同様であったが「とても思う」の評価が生徒・保護者とも大きく上昇していた。これは、取組みが評価されたものと考えるが、さらに相談しやすい状況を目指していただきたい。

そして、人間の多面性・多様性を理解した指導を目指す取組みとして、学校としての指導の統一性を明確にし、一貫性のある指導を行うなどとしており、令和５年度は、道徳授業地区公開講座「いじめ問題学習会～いじめを認める強さを身につけよう～」を実施していた。

（３）情操教育に関する成果と課題

改善方策では、学校目標の確実な達成を目指すとして、多様な学校行事や自治活動を通して、自己の役割や他者と協調することの大切さを実感させることで、実践・行動できる生徒を育成するとしていた。今年度は、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）の５類感染症移行に伴い、昨年度と運営方法を変更して実施されたものもあった。運動会、学芸発表会では、運営方法に対する様々な意見も寄せられていたが、コロナ禍の期間は教員の人事異動などにより運営方法の伝承に難しい面があったことから、寄せられた意見を参考にしながら改善に取り組んでもらいたい。アンケートでは、学校行事に関しての生徒の肯定的評価が昨年度に比べて横並びもしくは減少していたが、先生は生徒の意欲を大切にしているについて生徒の「とても思う」の評価が５ポイント程度上昇していた。これは、運動会準備委員会で、来年度に向けた取組みを行ったことも影響していると考えられる。今後もこの様な取組みを積極的に取り入れてほしい。また、ボランティアに関して積極的に取り組んでいることについて生徒の肯定的評価が、ボランティア募集が増加している中、１７ポイント程度減少していたのでボランティア活動の推進方法等に関して結果の検証が必要と考える。

（４）キャリア教育に関する成果と課題

改善方策では、キャリア教育の意義の理解を目指すとして、全学年でキャリアパスポートに取り組み、どの時期に何をすべきなのかを理解させながら、継続的で、より発展的なキャリア教育を展開するとしていた。今年度は、職場体験学習、東京都産業労働局と連携した起業家教育プログラム策定が行われていた。アンケートでは、キャ

リア教育に関しての肯定的評価が、生徒、保護者とも昨年度に比べて横並びか減少していたが、これらの項目は昨年度大幅に上昇しており一昨年度の数値よりは高い結果となっていた。キャリアパスポートを更に浸透させるためにも引き続き丁寧な説明を徹底させていただきたい。

そして、希望に沿った進路指導の実現を目指す取組みとして、高校説明会 IN 玉川中（２・３年生）、進路説明会（３年保護者）、定時制課程、チャレンジスクールなど多様な進路等の高校説明会（希望者）、都立高校出張授業（２年生）といった取組みを行っていた。

（５）基本的な生活習慣の確立に関する成果と課題

改善方策では、適切な生活リズムの確立を働きかけるとし、なかたまスタンダードの「あいさつ」「時間のけじめ」「聞く姿勢」等に昨年度から「タブレットの節度ある使用」を加え、他者との好ましい関係を築くための不可欠な事項を集団生活の中で育成するとしていた。本校では、SNS でトラブルに合わないようにネットリテラシー醸成講座、薬物乱用防止、闇バイトについての注意喚起を行うセーフティ教室、若者を犯罪者集団から守るための実演式講話を実施していた。アンケートでは、あいさつ、規則正しい生活に関する生徒の肯定的評価について、昨年度、今年度とも横ばいであったが、保護者の肯定的評価は５ポイント以上減少していた。あいさつ、規則正しい生活に関しては、昨年度同様、コロナ禍を経験した影響、タブレット配付の影響が少なからずあると懸念されることから、引き続いて状況を注視しながら指導に取り組んでいただきたい。

（６）情報提供に関する成果と課題

改善方策では、学校の取組みや活動状況などを積極的に発信し、教育活動への理解を推進するとしていた。ホームページにおける情報発信では、昨年度同様に、校長先生のコラムとして「学校日記」を小まめに発信していた。加えて、保護者の要望と働き方改革の側面から、配布プリントの「すぐーる」での配信を３学期から試行的に開始しており、効果が上がっていると伺っている。アンケートでは、情報提供に関する保護者の肯定的評価について、昨年度に比べて、学校公開などで生徒の様子がわかるが横ばい、様々な便りによる情報提供が５ポイント程度減少、ホームページなどによる情報提供が７ポイント程度上昇していることから、ICT を活用した情報提供が推進され定着してきていることがうかがえる。

一方、「なかたまの学び舎」に関する情報提供に関しては、昨年度同様に、保護者の肯定的評価が低下していた。これは、コロナ禍の影響で活動が制限されたことが大きかったと考えられるが、区として乳幼児期から小・中学校における質の高い教育の推進を掲げていることからも、小学校に対する「学び舎」としての取組みは大切と考える。今後の取組みに期待したい。

また、ホームページに関して、昨年度の当報告書で、些末であるが「学校日記」カ

テゴリが活用されていないなど改善の余地があることを記載させていただいたが、今年度は改善に至らなかった。これは、教育現場の事務負荷の多さの一端を示しているものと考える。

４．　学校関係者評価委員会の総合所見

（１）令和６年度に向けた課題

年度当初にはコロナが５類感染症に移行されたが、その中でも、工夫を重ねながら学校運営を行ってきたことがうかがえた。

昨年度の報告書では、「教職員全体における ICT 活用指導力の更なる向上に取り組むことを第１の課題」とさせていただいた。今年度の振り返りでは、アンケートからも ICT の活用が推進されていたことが見受けられた。一方、区教育委員会では、一人ひとりが自ら考える力を養う学びの実現、子どもたちに向き合う時間の拡充などのために、教育 DX の更なる推進に向けた施策として、教育ダッシュボードを活用し、教員が児童・生徒の学習進捗状況や理解度を把握し必要な支援を可能にする教育データ利活用の推進、基本的な ICT 活用スキル、インターネット上の情報の評価・理解能力など児童・生徒の情報活用能力の育成、学習系・校務系のネットワーク環境の統合による利便性の向上、デジタル採点システムの導入など働き方改革の推進等を掲げている。

このような状況を鑑みて、来年度においては、「ICT を活用した学びと教職員の子どもたちに向き合う時間の拡充の円滑な推進」を第１の課題として提言したい。今後、教育 DX の推進に向けた新たな動きが予定されているが、本校においても教職員全体の取組みで円滑に推進されることを期待したい。

（２）安全安心な教育環境の確保に向けて（特記事項）

区教育委員会では、昨年４月に発生した他区の小学校の校庭の釘による事故を受けて、全校において校庭における危険物の確認・除去等の対応を行っていた。確認・除去等の対応は目視だけではなく、金属探知機でも行われている。本校でも、確認・除去等が行われ、加えて、日頃から、学校の安全点検が定期的に行われているが、学校生活における安全な環境は、生徒にとって必要不可欠な事項であることから、点検項目を検証しながら安全点検の徹底を図っていただきたい。

５．　終わりに

世田谷区における学校評価のねらいの一つに「学校の改善」がある。それは、各学校が、自ら教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組みの適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ることである。当評価委員会は、今回の報告書がより質の高い学校教育の実現のための一助となるとともに、来年度の教育活動が生徒一人ひとりにとってより実のある教育活動となり、子どもたちが将来に向けて未知の世界を切り拓

く力を育んでいける教育となるように、委員一同、心から願っている。

令和５年度世田谷区立玉川中学校
学校関係者評価委員会
委員長　添田　茂
委　員　池光　薫、　伊澤　恵味子
齊藤　由美、澁澤　千春
辰巳　雄一